

チベット文化研究会 会長 中根千枝先生ご逝去

社会人類学者「タテ社会の人間関係」などで有名な、中根千枝会長が10月12日 午前4時に亡くなりました。ご逝去を悼み、ご冥福をお祈り申し上げます。以下、新聞の記事をまとめましたので、ご覧ください。



日本経済新聞 (2021年11月5日 (19:01))

「タテ社会の人間関係」などの著作で知られる社会人類学者で、東京大名誉教授の中根千枝（なかね・ちえ）さんが10月12日午前4時、老衰のため東京都内で死去した。94歳だった。告別式は近親者で行った。喪主は妹、松井淳子さん。（中略）

93年文化功労者、2001年文化勲章。他の著書に「家族の構造」「社会人類学」「タテ社会と現代日本」など。

朝日新聞デジタル (11月5日)

中根千枝さんが死去 社会人類学者 「タテ社会の人間関係」

東京大学東洋文化研究所長をはじめ、日本ユネスコ国内委員会会長、東京女学館大学長などを歴任。日本学士院会員や英国王立人類学協会名誉会員として学術振興に努めた。1987年に国際交流基金賞、88年に国際人類学民族学連合ゴールドメダル賞を受賞。2001年に文化勲章受章。（後略）

毎日新聞 (11月5日)

東京都生まれ。津田塾専門学校（現津田塾大）を経て東大大学院修了。米シカゴ大客員助教授、英ロンドン大客員講師、東大助教授などを経て1970年に同大教授。同大東洋文化研究所所長、同大評議員なども務めた。87年に定年退職後は、帝京大教授、東京女学館大の初代学長などを歴任した。民族学振興会理事長、日本ユネスコ国内委員会会長なども務めた。95年に女性初の日本学士院会員となり、2001年には学術系で女性初の文化勲章を受章した。インド・アッサム地方を調査した成果をまとめた「未開の顔・文明の顔」で59年、毎日出版文化賞を受賞した。67年の「タテ社会の人間関係」は、東大の教授会と、以前に調査した漁村の寄り合いに共通性を感じたことが執筆のきっかけだった。上下の序列を重視し、「ウチ」と「ソト」を差別する日本社会全体に共通の特質を描き出したことが、国内外で評価された。現在も、日本の社会構造や文化を論じる際の基本的な文献の一つとして参照され続けている。他の著書に、「タテ社会の力学」「社会人類学」「中国とインド」など。（後略）